



年頭挨拶

代表理事組合長

やまもと
山本 武

基本に軸足置く 広酪運営を目指して!!

平成二十五年度の年頭にあたり謹んで
ご挨拶を申し上げます。

昨年中は広酪に對しまして、ご理解
あるご支援とご協力を賜り、誠に有難
うございました。本年も何卒宜しくお
願ひ致します。

昨年の日本経済は、デフレからの脱
却を望みながらも、個人消費の停滞や
景気回復、雇用不安は解消されないま
ま推移致しました。

政界について見ますと十二月に執行
されました衆議院議員総選挙において
三年三ヶ月続いた民主党政権が崩壊
し、代わつて自・公政権が誕生したと
ころであります。その後、円高・株安
傾向から経済の改善への気運が見られ
ますものの東日本大震災後の復興は進
まず原発によるエネルギー対策も不安
の解消までには時間がかかりそうで
す。

TPP(環太平洋経済連携協定)交渉
への参加を巡る是非についても賛否両
論ある中で「聖域なき関税撤廃」を前
提にする限り、交渉参加に反対すると
の政府方針も曖昧な表現でしかなく、
交渉参加十一ヶ国は今年中の交渉妥結
を目指しており、真の正念場の年とな
りそうです。

我々は、TPP交渉参加について「断
固反対」を貫き、日本農業を守り、食
糧自給率が四十%に満たない中で、最
後の皆まで崩壊に至らないように関係
団体と共に交渉参加反対阻止行動を続
けなければなりません。

生乳生産につきましては、全国的に
は二%(前年対比)程度の回復基調が期
待されますものの、飲用牛乳の消費は
伸び悩みの状況にあります。特に広
酪においては、生乳生産が前年対比
九十七%を割るのではないかと危惧致

しております。3M事業による導入牛
や優良雌牛の後継牛確保等の支援策を
講じておりますものの、下降線を辿つ
ております。

今年度の事業目標であります
五万五千五百頭の達成も困難となつて
参りました。今後、配合飼料をはじめ、
粗飼料価格の高止まりや飼料価格補填
金制度の枯渇など、外的要因による経
営の厳しさも危惧されますので、簿記
記帳等を通して、経営状況の把握など
十分な対処をお願いしたいと思いま
す。

平成二十四年度の乳価につきまして
は、昨年十月に入つて乳業者との交渉
が纏まり、生クリーム向け二円五十
銭、加工向け三元と他用途向けにおい
て値上げをすることで妥結をしており
ます。

引き続き、平成二十五年度の乳価交
渉に向けては、飲用牛乳の安定供給は
将来に向けた再生産への設備投資や乳
用牛の確保がなされ、安定的な所得の
確保が必要であります。一方では生
乳生産コストに見合う乳価が必須であ
り、今後早急に交渉についての準備に
入らなければなりません。

TMセンターの統合につきまして
は、創設以来、年数も経過しており施
設の老朽化・陳腐化した機械等の更新
時期にきております。既存の施設を有

効活用し良質で低廉な製造飼料として
組合員に広く利用頂き、コスト低減を
もつて、安定的に生乳生産を励んで頂
くための、労力の軽減も必要である
と思ひます。施設統合によるメリットを
最大限に活かして投資を最小限に留める
為に国・県行政に対しても対象補助事
業の検討を仰いでおり、今後、検討協
議を重ねて参ります。

総会・地区懇談会等でご意見を戴い
ておりました「酪農ヘルパー事業」の
意見・要望につきましては、酪農ヘル
パー事業円滑化推進委員会を設置し、
今年度三回の協議を行い、年度内にと
りまとめる方向にあります。

広酪の役員任期が平成二十五年六月
の通常総会をもって満了となります。
これに向けて、三月から役員推薦の手
続きを進めて頂く事となりますが、男
女共同参画社会の観点からも女性役員
の選任にもご理解を賜りたいと思ひま
す。

本年も酪農経営環境は厳しいことが
予想されますが、「組合員のための組
合」であることを基本に組合員の負託
に應えるため、指導の強化やリスク回
避に向けて取り組みながら、基本に軸
足を置いた組合運営を目指して役職員
一同、一丸となつて使命達成に向けて
努力して参りますので本年も宜しくお
願ひを申し上げます。



代表理事専務 隅屋 寒三
すみや かんそう

第六次中期三か年計画の実現と 信頼の組合運営を目指す

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

平成二十五年の年頭にあたり、組合員の皆さまから旧年中に賜りましたご支援、ご協力に対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年末の衆院選は政権政党の「選挙公約」の実行性が問われた末の政権交代となりましたが、政権奪還政党の公約の本文には、まず「復興」、「これに「経済」、「教育」、「外交」、「暮らし」と続き、失望の政治、低迷する日本経済、閉塞感に包まれた国内社会からの脱却を実現するとしています。

我が国酪農も、飼料価格高騰は生産コストを押し上げ、再生産が困難な実態から、生産基盤は崩壊の危機に直面しており、「酪肉近代化基本計画」の内

容拡充と即効性・持続性の実現が早急に求められ、T P P問題を含め関係者が一丸となって政府への施策要請活動を展開していかなくてはなりません。

組合は、こうした国内外の経済・社会の動向を注視しつつ、国・県への積極的な施策要請を行い、酪農経営への影響の極小化に努めることは勿論、本県酪農の「針路」としてご承認を頂いております「第六次中期三カ年計画」の実現と実効性を生み出し、組合員皆さまの一層の信頼を得る組合組織運営に新たな決意を以て臨んで参る所存であります。

今年も旧に倍する組合員の皆様のご指導とご協力を賜りますとともに、ご健勝をお祈り申し上げます。

○今月の表紙

▼今年、巳年。「実りある年」になつてほしいと願う。

▼巳年の一月二日、広島県三次市にある「奥田元宋・小由女美術館」を訪ねた。

▼丁度、同館では地元保育所や市立学校、高等学校等、幼児や児童による作品展が行われていた。

▼このテーマ「見た！描いた！撮った！私の作品発表展」と題され、特に保育園児による作品に足がとまり、持ち合わせたカメラで撮影し本誌今月号の表紙とした。

▼この作品は、三次市の青空保育園の園児によるもので、卵の空バックでヘビ柄があらわれる工夫がされていた。

▼巳年にあやかつて、可愛いへビ

のうねりに合わせて、子供たちが万歳し喜んでる様子を素直な感性のままに表現された作品は大変可愛く、「何を思つて描いたのだろうか？」と興味をわいた。

▼奥田元宋氏は「元宋の赤」といわれる独特な赤色が特徴の日本画家で有名である。

▼同美術館では、元宋氏の絵画や、同氏の奥様、小由女氏の美術品が鑑賞出来る。

▼何かと明るい話題に事欠く世情にあるが、絵画等の美術作品の鑑賞を通じて、心穏やかな時間を過ごすことが出来た。

▼皆さんも、広島にお越しの節は、是非とも「奥田元宋・小由女美術館」を訪ねられては如何でしょうか。



あけまして おめでとうございます

今年一年
宜しく願ひします



■理事 藤井鉄男

先行きが見通せない酪農・高齢化・後継者不足・経営窮乏等、問題は山積しています。「組合員のための組合」、「信頼される組合」として事業推進にご協力をお願いします。今年は「巳年」ですが蛇は脱皮することから、「再生」との意味もあるようです。新たな気持ちで頑張りましょう。



■理事 檜垣義雄

今年に入って、急激な円安となり、飼料の高騰が予想されます。自給粗飼料と自家育成牛の確保をもって安定した酪農経営を目指しましょう。



■理事 大上浩也

政権交代によって景気の上向きが期待されていますが、TPPや円安による飼料価格の高騰など、懸念される問題が多々あります。このような環境の中で、少しでも安心して酪農に取り組めるよう微力ながら尽力致します。



■理事 道下伸雄

今年は年男です。生まれ変わった気持ちで初心にかえって何事にも取り組む所存です。厳しい現況を打破するためには乳価値上げしかありません。組合員と組合が一体となって力を結集し実現していきましょう。ご協力お願い致します。



■理事 温泉川寛明

最近では配合飼料や粗飼料が共に値上がりし、新聞を見ると農家の七十三%が経営悪化と報じられています。組合員のために何をすべきかを考え、乳価値上げの要請や組合控除額の減額、生乳生産基盤の復元等、所得増大のためにとにかく頑張りましょう。



■理事 柿原徳則

自公政権になり、方向性が定まらない状況ではあります。自分たちのやるべきことを着実に一歩一歩、蛇の如く「のらりくらり」と歩んで行くしかないのかな?と思います。みんなで力を合わせて頑張らしましょう。今年もよろしくお願いします。



■理事 岩竹重城

今年の酪農経営は足腰の強い酪農を目標に、育成牛の確保を最低でも成牛の六割とします。この育成牛確保は乳質(体細胞)改善に繋がります。広酪はTMRセンターの統合で安く乳の出る餌の確保と育成牛用TMRで利用率向上を目指します。組合の皆様、今年もしっかり乳を出荷して下さい。



■理事 鈴木道弘

今年は決断し、実行する年としたいと思います。酪農も政治に翻弄され、一方で政治に期待しすぎて来ましたが、TPP反対ばかりでもどうかと考えます。助成ばかりに頼る酪農に未来はない。私も残り十年。小規模酪農の理想を極めてみたいと考えています。組合運営も思いきった改革と発想の転換を図り組合員の期待に応えなければと決意する処です。



■代表監事 池田道明

厳しい農業、酪農環境ではありますが、今年は組合員が希望を持てる年になりますように、意識改革による経営改善に重点を置きたいと思います。組合員のための広酪運営が今年も進むように皆様のご協力をお願いします。



■理事 榎野大樹

組合運営の意思決定を担うためには、日頃から皆様と対話し、その声を反映させていくことの重要性を感じています。相変わらず酪農を取り巻く環境は厳しさが続いています。改めて皆様とのつながりを大切にして努めて行きたいと思っています。



■理事 川角晴俊

今年も酪農を取り巻く状況は厳しいと思われるます。こうした中で組合は皆さんの経営や生活を支え、守って行かなければいけません。この責任を果たすよう努力を重ねる所存です。



■監事 林 智行

今年は巳年です。蛇が獲物を狙うが如く、じっと耐え忍び、時が来るのを待ち構える年でありたいと思います。組合員の皆さん宜しくお願いします。



■監事 上村 一

今年も酪農経営において何が利益を生み、何が不利益となるか良くよく考える一年としたいと思います。



■監事 沖 正文

メソポタミアの時代よりつづく、人と牛の絆の結晶である「酪農」に、組合員が誇りを持ち、続けて行く為に、組合として、今の環境に適應する革新を図ることに努力します。